

いかがお過ごしでしょうか。日本は、早や初夏の装いなのでしょう。こちらは、雨期の終わりが近いようで、雨の降らない日が多くなりました。これから、強い日差しと暑い日々が多くなります。

皆様のご支援とお祈りに感謝を申し上げます。
お陰様で受益者の女性たちとその子どもたちは、元気に過ごしています。ジョセリンとインマニエル姉弟は、5月2日よりセンターで暮らすことになりました。これまで母方の祖父母と同居していましたが、ジョセリン姉弟を愛していない祖父母と暮らすことはふたりには辛く、悪影響があるためセンターで保護することにしました。センター内の小さな二部屋が姉弟の住まいです。そのため、現在センター内で暮らす受益者は、アタナジィー家、マドリンと双子、そしてジョセリン姉弟の三家族です。

ところで去る5月18日、シスターの西本桂子さんがリリマを訪問してくださいました。今回の短信は、その訪問記です。

2018年5月29日
竹内 緑



シスター西本桂子さんとセンターに暮らす
受益者とスタッフたち



左からロレンス、バレンティン、シスター西本
桂子さんとバレンティンの店で

~~緑さんのセンターを訪問して~~

竹内緑さんは私がルワンダに来て初めて出会った日本人で、それ以来約3年のお付き合いです。とはいっても度々お会いすることはできないのですが、お会いする度にセンターの様子をお話しくださり、いつも関心をもって聞いていました。いつかこのセンターを訪問したいと思いつつ時間が過ぎていましたが、今回初めての実現となりました。

首都キガリからバスを乗り継ぎ、うまく行って2時間程、湿地帯を通り、リリマに近くなるとルワンダ東部の景色、草原地帯が広がります。センターはとてもきれいなお家で、門を入ると三家族とスタッフの皆さんが笑顔で迎えてくれました。子ども達は緑さんを見ると、「ミドリ！ミドリ！」と大喜びです。初めての私も、緑さんの友人とわかるのでしょうか、すんなりと受け入れてくれました。

7人の子ども達とそのお母さんは、もう3年程センターの支援を受け、心身共に健康な状態だと感じました。ふたりの姉弟も、センターの温かい家庭的な雰囲気の中で、よく育っていくと思います。それぞれの個室を嬉しそうに見せてくれました。双子の赤ちゃんとそのお母さんはまだ暗い影が見えますが、スタッフの皆さんがよく話しかけ、おんぶして歌ったり踊ったり、深い愛情と指導によって少しずつ喜びを見出していられると思います。

また、センターの支援を受け、自立の道を歩んでおられる Valentine を訪問することもできました。スタッフの Laurence の通訳によって彼女の証を聞かせてもらい、彼女の深い信仰に感銘を受けました。貧困、半身麻痺のお母さんの毎日のお世話、シングルマザーになったことによる周囲からの冷たい態度……。空腹と心身の疲れ、先の見えない暗闇の中でも神様にすべてを捧げて信頼し、緑さんと Laurence に出会ったこと、物質的・精神的支えを心から感謝していました。

今回のセンターの訪問を機会に、緑さんといつもより長く接し、本当に「祈りの人」だと感じました。毎日の祈り、年に数回の黙想の日々の中で、常に神様に聴きながらご自身を捧げ、一人ひとりに対するきめ細かい配慮、将来を考えての支援をしておられます。神様から緑さんに託された使命ールワンダで病んでいる人々を癒すーに対しても、「神のなさることに私も参加させて頂く」ととても謙遜です。

この訪問によって頂いた多くの恵みに感謝するとともに、このセンターが、今後も神様の祝福の中で病んでいる人々に癒し、喜び、希望をもたらし続けますようにお祈りしています。

天使の聖母宣教修道女会 西本桂子